

なめがた未来のまちづくり協議会 意見提出シートとりまとめ

No.	章	プロジェクト	ページ	見出し	意見	コメント
1	第1章		P11	3つの基本理念	「3つの基本理念」は良いと思います。コメントとしては、最も左側の「継続」から「変革」へに付随する文章についてです。 1つ目の文章で「今までの5年間で同じ目標に向かうための意識変革ができた」とあり、2つ目の文章(後半)は、「意識変革をさらに広げ」とあります。 タイトルにあたる「継続」から「変革」への持つイメージは、「静」から「動」のような、「継続＝現状維持から、変革＝変えていくぞ!」という意気込みを感じられるもので、そうしたタイトルと文章が少ししっくりしませんでした。 例えば、1つ目の文章の前半の結びを「…意識の変革を起こすことができました」とするのではなく、これまでの5年間は協働指針の策定を通じた価値観の共有として、これからの5年を変革の実行ステージと整理したほうが、タイトルで示す基本理念「継続」から「変革」へに付随するリード文としてフィットするよう思いました。	ここで指します、継続というものは、合併からの10年間で培ってきた「市民力」を背景としており、平成27年度に策定した当時を起点として向こう10年間を「変革」のステップとして位置づけております。今回は改定版ということで、中間の総括的な意味合いが込められた文章表現としているため、しっくりこない印象があらうかと思いますが、鈴木市長も3期目に入ったこのタイミングで、更なる変革の意識改革を強めてまいります。
2			P11	3つの基本理念	身の丈に合った市政運営から、「行方市ならではの市政運営」について基本理念とは、基本的に普遍的なものの考え方と認識していますが、この度の変更は身の丈を考えず、魅力的なまちづくりのため、投資をしていくと読み取れますがそのような理解でよろしいですか。	ご意見のとおり、基本理念は普遍的な考え方として認識しております。今回の見出しの背景としましては、総合戦略策定時には想定していなかった新型コロナウイルスやデジタル化など社会環境が目まぐるしく情勢が変化するなど課題が発生します。その解決策を市民と一緒に考えることで、限られた財政規模で質の高いサービスを提供できる身の丈に合った市政運営を行う方針は変えずに、その限られた資源を有効に活用するための必要な投資を行い、魅力的なまちづくりをつくっていききたいという思いが込められています。
3			P12	土地利用の基本的な方向性	病院、庁舎、消防署が隣接と書かれてありましたので、規模の大きさはともかく病院を残してもらえということに安心しました。 ただ、正直な気持ちとしては、やはり救急医療体制、夜間医療体制は確保してほしいです。自分が本当に困った時があり、とても不安でした。移住政策を推進するならばマストだと考えます。 どういった経営だったら、病院が赤字にならなくて済むかということだと思いますが例えば、遠方からわざわざ診察にくるような特殊な診療科を設置というの一手ではないかと思えます。西洋医学ではない漢方、代替医療、東洋医学等々漢方・代替医療の専門家、医師監修による健康のための断食施設、薬膳レストランなど、観光と並行して行うことも人を呼び込む一手ではないでしょうか？ 自分の体の不調を改善するため、いろいろ調べていて、見つけました。 <参考> https://www.kenkounoyakata.com/ 断食 https://www.kenkounoyakata.com/fasting-special/	羽鳥委員からのご意見にもありますとおり、子育てを行う環境としてだけでなく、移住政策についても行方市を選択していただく上で重要な課題であると認識しております。 本市の医療提供が脆弱であることから、市民の皆様が必要な時に必要な医療を受診できる医療提供体制を構築してまいります。 また、近年断食なども流行してありますが、そういったトレンドも踏まえ、医療提供の幅を広げる考え方についての検討や、健康への関心・行動を高めるための意識向上に向けた取り組みも併せて実施してまいります。
4		健康で文化的なまちプロジェクト	P.23	健康チェックの機能の充実	健康機能の充実といった部分で、アントラースウェルネスプラザで実施している健康チェックを紹介します。 InBodyという機械に数分乗るだけで、添付のような検査表が紙でもらえます。 これにより、自覚していないことも分かりますので(筋肉量が少なくなっている、水分、ミネラルが足りていない)など、健康維持を目指す大きな役割となります。 InBodyは持ち運び簡単で手軽にチャレンジできます。 アントラースの職員もInbodyが会社でできる日は、多くの社員が利用し、人気の健康プログラムです。	ご紹介ありがとうございます。行政だけでは、解決できない課題も多くありますことから、官民連携を図りながら事業の推進に努めたいと考えます。
5		住みやすい地域プロジェクト	P26	成果指標	「01 住みやすい環境を整備する」の成果指標の2つめ「人口社会増減」の目標値の見せ方ですが、(転入者数-転出者数)を指標に設け、「実績⇒目標値」を「▲260人⇒▲330人」とされています。 後ろに付していた参考データの「人口推移」を見ると、難しいところかと思いますが、「減少幅を広げる目標値」では残念な気がします。せめて、昨年度実績値である▲260人レベルの維持にはいかがでしょうか。 ※▲330人という数字はどこから導きだされたものでしょうか？	担当課に確認を行いました。目標値は過去3年間の推移より担当課にて設定した数値です。担当課としては▲330人を上回る危機感を持ちながら、減少幅をすこしでも下げ止まりできるようにという思いが込められています。
6		みんなて育ぶプロジェクト	P37	アンケート調査結果	子どもを産み育てられる環境について 市内の夜間および土日祝日の急を要する子どもの診療体制がどのようになっているかを知りたい。私は行方市に住むようになって10年となり、夜間救急は土浦市が神栖市になることを、産後にママ友から教えてもらった時は正直驚きました。(具合が悪いのに、1時間以上かけて市外に行くなんて！) お陰様で夜間救急に一度もお世話になることなく子どもは成長していますが、眼科や耳鼻科といった専門科が市内に少ないもしくは無いことにも不安を感じています。 医療体制の確保は、子どもの成長には欠かせないもので、外部からの定住を促すためにも必要な分野であると考えますが、過去から現在、未来に於いての医療体制の変容とビジョンを知りたいです。	ご意見のとおり、医療体制の確保について、P37の記載にもあるとおり、安心して子どもを生み育てられると思う環境には、「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」が必要であると回答している割合が高く、喫緊の課題であると認識しております。 また、県では、茨城子ども救急電話相談窓口があり、24時間365日看護師が対応し、夜間でも受診可能な医療機関も案内してくれまます。しかしながら、医療提供体制が脆弱であることから、市内はもとより近隣の医療機関と連携を図り、市民が必要な時に必要な医療を受診できる医療提供体制を構築してまいります。
7		情報発信で日本一プロジェクト	P38	情報発信	インスタ、ツイッター、ブログ、フェイスブックで行方のいいところ発信するキャンペーンを全年代で実施し、使い方講座なども開くのはどうでしょうか？ それにより、ほけ防止、生きがい創出、家族内での共通の話題、ボケ防止、生きがい創出になり、結果街のPRになるのではと思います。 行方のいいところを投稿しようキャンペーン(例)日々の出来事、夕日、朝露が付いた野菜、美しい景色、おいしそうなお芋、野菜、お米、のどかな風景	使い方講座など、デジタルデバインド(情報格差)を解消する取り組みなど、今後、行方市ではデジタル化に向けた取り組みを強化してまいります。 また、全市民が情報発信源となることで行方のよいところが外部へ発信できるように努めてまいります。
8	P39		情報発信	情報発信 行方市のLINEに登録しています。新型コロナワクチン接種の予約その管理には非常に役に立ちました。(忘れないように、接種日の前にラインが届く。) 市内の人向けだけではなく、市外の人に向けて、情報発信は重要だと考えています。今は何をやるにも、「まずは検索」という事が多いと思うため、ウェブでの情報発信は不可欠。行方市で、専門に情報発信をしている担当が何名ほどいて、どのように活動しているのかを知りたい。良い情報も、発信しなければ相手に伝わらないし、魅力を生かせない。まずは認知度をあげるため、行方市の良さを市外にどんどん発信する行動力が必要かと思う。 休みの日に緑の中で子どもを遊ばせたいファミリーは多いと思う。そう考えると、自然豊かな行方市は、子育て世代にも売り込める素地をたくさん持っていると思います。	行方市の情報発信については、政策秘書課広報広聴グループにおいて、行方市シティプロモーション指針に基づき、市報をはじめ、公式SNSなど様々な手段で情報発信を行っております。 まずは、行方市を知ってもらうことから、交流人口、関係人口を創出していけるように効果的かつ効率的に市内外に情報発信を行ってまいります。 また、本計画において、100人委員会でも議論を行い、総合戦略に反映しておりますが、行政だけの発信だけでは市の魅力を十分発信できるわけではありませぬので、市民ひとりが行方市の魅力の発信源となっていくことで、シビックプライドの醸成と市外の方への伝わる情報となることを目指した計画となっております。	
9	特記事項(自由記述)			感想	仕事でアントラースのホームタウン5市の総合戦略資料を拝見する機会があります。そのなかで行方市は100人委員会などで市民の意向を大切に、市民の為の、市民に分かりやすい文言で書かれている市民目線の総合戦略だというのが、非常に強く感じたことでした。	ご意見のとおり、本市の総合戦略は市民の方に手に取って読んでもらうこと、自分事として考えてもらい、行動に移してもらうことを目的に分かりやすく表現して作成しましたので、共感していただき有難く存じます。
10				誤植	P53の弊社名の表記の一字誤りがございました。(誤) pian⇒(正) plan 計画、企画の意味Un plan kaholになります。 訂正をお願い致します。	校正の際に修正させていただきます。大変失礼いたしました。